明日への道標

清里に眠るアメリカ
―ポール・ラッシュ 片道切符の使者―

㈱日本設備工業新聞社
代表取締役社長　高倉克也

危険なタックル問題で話題になったアメリカンフットボールはポール・ラッシュ（1897－1979）によって日本に伝えられた。ポールが教鞭を執った立教大学のチーム名は彼の名前と前進するRushの二重の意味を込めてRUSHERS＝ラッシャーズと名づけられた。

ラッシャーズは彼が山梨県八ヶ岳南麓の清里に開設した清泉寮で毎年合宿を行っている。戦後の農村の復興モデルとして荒野の清里を全国屈指の観光地に変える先導者となったポールは清里開拓の父とも呼ばれている。

戦前・戦中・戦後を通じた起伏に富んだ道のりは劇的に変貌する日米関係の縮図といってもいいだろう。ときには激しい歴史のうねりに翻弄されながら険しい山を超えようとした。

冒険に格好の場所へ

ポールはインディアナ州フェアマウントで生まれ、ケンタッキー州ルイビルで育った。地元の商業学校を卒業後、鉄道会社や石油会社で働いて第１次世界大戦に出征。フランス戦線から帰国後、あこがれのニューヨークでホテル勤めをはじめた。

1925年、国際YMCA（キリスト教青年会）から関東大震災で被災した東京と横浜のYMCA会館を再建するために日本へ派遣された。小柄で好奇心いっぱいで血気盛んな28歳の青年はこのときの心境を「私は猛烈に旅がしたかった。日本のことはまったく知らなかったが、冒険には格好の場所に思えた」と手記に綴っている。

ポール・ラッシュ

彼の有能な働きぶりを知った立教大学理事長のジョン・マシム主教に見込まれ、翌年から経済学部教授として迎えられた。「若者たちの国境を超えた交流こそ平和を築く」と野球部のアメリカ遠征を実現させ、アメリカの国技ともいえるアメリカンフットボールをはじめて紹介する。

気さくで面倒見のいいポールが住む職員寮の五番館は学生たちのたまり場になった。タバコとバーボンを愛好し、集まった学生たちに手づくりのサンドイッチを振る舞った。

1928年、関東大震災で倒壊した聖路加国際病院のルドルフ・トイスラー院長から新たな慈善病院の建設に向けた募金委員に指名される。ポールはニューヨークの本部と連携して資金集めに奔走し、ロックフェラー財閥やモルガン財閥の支援を取りつけた。目標の金額を３年ほどで達成し、1933年に東洋一の規模と設備を誇る新聖路加国際病院が築地に落成した。

1934年には立教大学五番館で東京学生フットボール連盟が設立され、初代理事長に就任する。

戦争で強いられた帰国

キリスト教の布教活動に情熱を燃やすポールは青少年の研修施設をつくろうと清里に白羽の矢を立てた。はじめて訪れたとき、真正面に見える富士山と八ヶ岳南麓の荘厳な景色にしばらく口が開かないほど感動したという。

1936年から山梨県庁と用地交渉を開始し、1938年１月から1940年３月まで県有地が貸与されることになった。1938年、日米の青少年の夏の訓練キャンプ場として標高1380メートルに位置する清泉寮が誕生する。

順風満帆と思われていた布教活動の背後では国際情勢に暗雲が垂れ込めようとしていた。中国に侵攻して満州国を建国した日本は国際世論の反発を受けて国際連盟を脱退。1937年に日中戦争が勃発し、戦火は中国全土に広がった。アメリカでは日本に対抗する動きが急速に強まっていく。

1941年、アメリカ聖公会は日本に派遣していたすべての宣教師に国外退去命令を出す。ポールは抵抗し、ただひとり立教大学に残留した。NHKのラジオ番組に出演して「日米の青少年の間で行われてきたスポーツマンシップの交流は両国の相互理解と友好の大きな架け橋であり、真の平和と友好をもたらすものだ」と戦争の回避を訴えた。

だが同年12月８日、日本の真珠湾攻撃で太平洋戦争に突入する。ポールは敵国人として特高警察に逮捕され、田園調布の外国人抑留施設に収容された。約７カ月間の拘束生活後、1942年６月に日米交換船で強制送還される。

帰国の直前、立教大学への立ち寄りを許され、教職員や教え子たちに別れを告げた。チャペルの壁には戦没記念者として戦場で散った教え子たちの名前が刻まれていた。ポールは涙を流しながら「必ず帰ってくる」と言い残した。

ベストを尽くすアメフト精神

戦時中は豊富な滞日体験を買われてアメリカ陸軍情報部（MIS）の語学学校人事課長を務めた。おもに日系２世軍人への日本語教育を担当する。

1945年、戦争終結後ただちに再来日し、GHQ（連合国軍最高司令官総司令部）の民間情報局（CIS）に配属された。外交官の沢田廉三・美樹夫妻の麹町の邸宅を戦犯容疑者や共産党員などの情報収集活動の拠点にする。通称CISハウスには個人情報が集められ、戦犯リストが作成された。とはいえポールは旧知の友人らに頼まれて容疑をもみ消すことが多かった。三菱財閥創始者の岩崎弥太郎の孫娘である沢田美喜の慈善事業を支援し、神奈川県大磯に創設したエリザベス・サンダースホームの日米混血孤児たちのゴッドファーザー（洗礼名の名づけ親）を引き受けた。

1947年、深刻な食糧難を解消しようと農村復興モデルとして清里農村センターの建設に着手する。翌年、清里教育実験計画を実行するキープ協会を設立し、稲作に適さない清里で酪農や高原野菜の栽培を中心とした高冷地農業の実験プロジェクトを開始した。山梨県知事から90万坪の県有地が貸与され、牧場、農場、診療所、保育園、図書館などをつくり、ジャージー牛や耕作用のトラクターをアメリカから輸入した。永年にわたって築いた人脈を駆使し、資金は１万通以上の手紙を送って集まった寄付金で賄った。

1950年代から清里の観光地化が本格化し、登山道が整備されてスキー場やキャンプ場がオープンした。ジャージー牛からとれるジャージーミルクを使った清泉寮名物のソフトクリームはポールが生みの親といわれている。

アメリカンフットボールでは1948年、日本一決定戦の第１回ライスボウルで始球式のキックを行う。1961年、日本アメリカンフットボール協会から「日本フットボールの父」の称号を与えられ、1984年からライスボウルの最優秀選手にポール・ラッシュ杯が贈られるようになる。誰よりもアメフトを愛したポールは Do your best, and it must be first Class（ベストを尽くして一流になれ）と選手たちを鼓舞した。

晩年の10年間は心臓病を患いペースメーカーを胸に埋め込んでいた。入院先の聖路加国際病院で82歳で永眠し、遺骨は清里聖アンデレ教会の納骨堂に安置された。亡くなる直前にイギリス国教会のカンタベリー大主教が見舞いに訪れた。

生涯独身で驚くべきことに資産は皆無だった。最後の所持品として愛用のパジャマと歯ブラシが残された。